

# 鶏の研究

The NIWATORI-NO-KENKYU Published Monthly by KIKOU SHOBOU

7

2017



## 防疫・衛生・飼料対策

- ◆飼料用米給与時における鶏の成長に対する暑熱の影響① 豊水正明・南都文香
- ◆採卵鶏の長期産卵サイクルと高生産のための飼養管理 ポーリエン・ルッテン
- ◆細菌性フィターゼの飼料添加により栄養素・エネルギーの有効性を改善
- ◆徹底したサーベイランスと適切なワクチンでIBによる経済的損実を最小限に
- ◆暑熱時のブロイラー生体応答と添加物等の利用による新たな栄養制御

## トピック

- ◆IECモンテカルロ大会に参加して 赤木八寿夫
- ◆肉用若鶏の処理羽数および処理重量は前年比で各1.6%、1.8%増加

## 長期連載シリーズ

- ◆日本の食物史に見る食卵と食鳥③ 駒井 亨
- ◆随想 加藤宏光



木香書房

1924年(大正13年)創刊

## 第二回オーガニックライフスタイル EXPOプレス発表会開く

〜第一回アニマルウェルフェアサミットも同時開催へ〜

(社)オーガニックフォーラムジャパン

(社)オーガニックフォーラムジャパン(OFJ、徳江倫明会長)は、五月二十四日、東京都千代田区のエムワイ貸会議室お茶の水で、第二回オーガニックライフスタイルEXPOプレス発表会を開催した。

七月二十八〜三十日に東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催する第二回オーガニックライフスタイルEXPOの概要説明を目的としたもので、冒頭挨拶した徳江会長は、「今回の目玉は、会場の中心に設けるオーガニックビールのビアスタンドで、夏を象徴するイベント展開となっている。主たるテーマは『オーガニック3・0』。オーガニック3・0とは、一九五〇年代に有機農業の先駆者たちが動き始めたオーガニック1・0、

一九七〇年代以降流通が発達し、基準や有機JAS等の普及によって有機農産物がマーケットに浸透したオーガニック2・0に続くもの。持続可能性について等、2・0で取りこぼした問題をすくい上げることが目標としている。持続可能性を考えると、小規模な家族農業という形が理想というのが世界的な認識になりつつある。世界のこの動きにのっとり、暮らしのあり方が持続可能なものとなるよう、手に取れる商品を出展し皆様に実態を見て頂きたい」と話した。

続いて秋元一宏代表理事が、同EXPOの全体開催規模・企画について説明した。同EXPOは、「国内のオーガニックを基本としたライフスタイルビジネスの健全な発展と啓蒙普及」を



▲徳江倫明会長

目的とし、テーマを「オーガニック3・0を推進する」持続可能な開発目標SDGsの実現に向けて」として、前回より規模を拡大して開催する(SDGs: Sustainable Development Goals)持続可能な開発目標(国連)。

主催者テーマゾーンとして、新規就農者応援ゾーン、アニマルウェルフェアゾーン、キッチンガーデン/家庭菜園ゾーンを設け、三十日には第一回アニマルウェルフェアサミットを開催する。また、開催前日の二十八日には、バイヤー向けセミナーや商談会、シンポジウムも開催する。

### ●開催概要

名称: 第二回 Organic Forum Japan〜オーガニックライフスタイルEXPO〜Summer  
会期: 二〇一七年七月二十八(金)〜三十日(日)  
開場時間: 十〜十七時(二十九・三十日)  
会場: 東京国際フォーラム展示ホールE・D7ホール・ガラス棟会議室(前回屋外で開催したマルシェは、全天候に対応できるように屋内に移動する)  
入場料: ..

【二十八日】オーガニックバイヤーズミーティング三、〇〇〇円(税込) 招待状持参無料、オーガニックフォーラムシンポジウム(仮称)一、〇〇〇円(税込) 招待状持参/事前登録無料  
【二十九・三十日】EXPO展示販売商談会一、〇〇〇円(税込) 招待状持参/事前登録無料  
来場目標: 三万人

展示規模: (屋内)約一九〇社二四〇小間(二〇一七年五月現在)  
URL: <http://ofj.or.jp>